

付

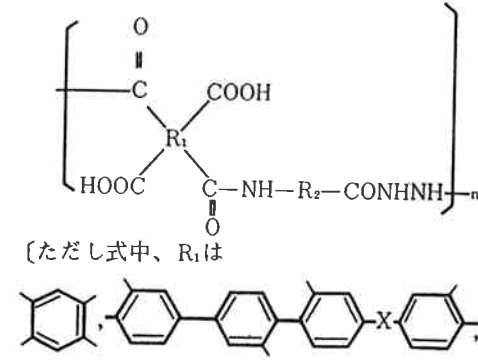
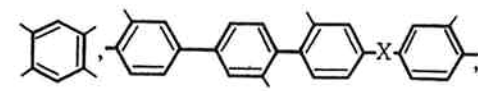
特許・実用新案登録一覧

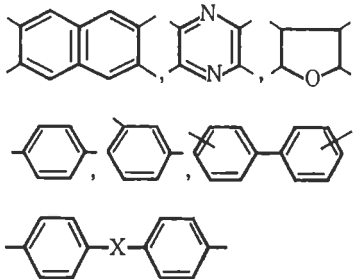
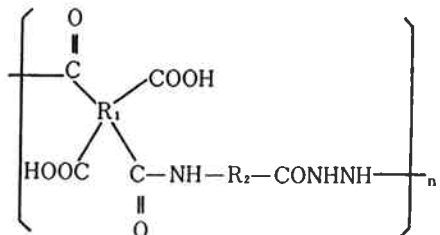
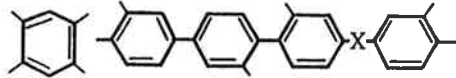
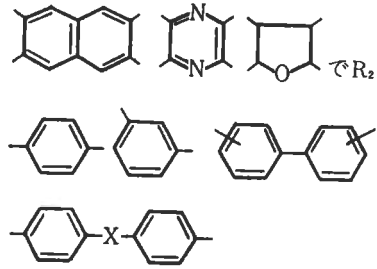
—昭和51年度—

<日本特許> 27件

No	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
1	802113 (51. 1.31)	50-16265 (50. 6.11)	45-120888 (45.12.29)	ク溶性加里溶成磷肥からなる遅効性複合肥料の製造法 (中島 正明, 小林 照治)	ク溶性加里溶成磷肥と酸性下に尿素とアルデヒドを反応させて得られる縮合物の湿潤ケーキとを混合し, 得られた混合物又はその混合物に必要なに応じて水分を加えて造粒し乾燥することを特徴とするク溶性加里溶成磷肥からなる遅効性複合肥料の製造法。
2	802891 (51. 2.10)	49-5622 (49. 2. 8)	45-24712 (45. 3.24)	熱可塑性重合体の製造方法 (高木 利治, 吉田 敏郎, 橋本 勉, 清水 明彦)	1-クロロブタジエンを0.5~40重量%含むクロロプレン共重合体5~40重量%の存在下で芳香族ビニル化合物の少なくとも一種とそれにエチレン性不飽和ニトリル, アクリル系単量体の少なくとも一種をグラフト共重合することを特徴とする耐候性および耐燃性, 耐衝撃性のすぐれた熱可塑性樹脂の製造法。
3	803506 (51. 2.10)	50-18036 (50. 6.25)	43-75805 (43.10.16)	積層物を貼り合せる方法 (石田 正明, 藤井 秀雄)	透水性材料から成るフィルム又はシートの一面に, 厚み0.1 mm以下のプラスチックフィルムを貼り合せてなる積層物の端において, 上記プラスチックフィルムの端を, 上記フィルム又はシートの端よりも僅かに突出させ, その突出した部分を含めて積層物の少なくとも一端に, コロナ放電を伴う高電圧歪力を作用させて処理し, この処理した部分を透水性材料の面又は処理したプラスチック面に当接し, 互いに当接した部分のうち, 突出したプラスチック部分を除いて, そこに接着剤を塗布して接着し, 上記突出したプラスチック部分は, 接着剤を塗布しない状態として, 対向するプラスチック面に当接させることを特徴とする積層物を貼り合わせる方法。
4	803350 (51. 2.10)	50-19273 (50. 7. 5)	45-107084 (45.12. 3)	ページ式比重測定方法 (富田 昇, 吉武 達成)	比重を測定すべき液を入れた測定槽と比重が既知の基準液を入れた基準槽を用いて, 両槽にかかるページガスによる背圧の差を利用して測定液の比重を測定するページ式比重測定方法において, 高圧側のページガス源に接続される長ページ管を測定槽内の測定液に挿入し, かつ基準槽として基準液を所定高さに入れた基準管の下部を差圧伝送器の低圧側に直結し, 更に同じ基準液を入れた該基準管と同径の補助管を差圧伝送器の高圧側に設置し, あるいは該基準管を基準管より下の部分の基準液の膨張, 収縮による液面変動が無視できるような大容積を持つ基準管を用い, 該基準管の基準液上面を測定槽の測定液に挿入した短ページ管及び低圧側のパ

№	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
					ージガス源に分岐接続して基準管による背圧を差圧伝送器の低圧側に接続した基準液の液体圧力で生ぜしめるようにしたことを特徴とするページ式比重測定方法。
5	806081 (51. 3. 8)	47-18745 (47. 5.30)	44-14263 (44. 2.27)	無水ピロメリット酸の精製法 (村山 浩, 森本 満, 岩本 英次, 吉田 正美)	1・2・4・5-テトラアルキルベンゼンを気相空気酸化して得られる反応管排出ガスを 230~150°C に保持し, 該反応管排出ガスより該温度域で無水ピロメリット酸を結晶させて, これとこれ以外の他の成分とを分離することを特徴とする無水ピロメリット酸の精製法。
6	806791 (51. 3. 8)	50-13724 (50. 5.22)	45-45649 (45. 5.29)	電着金属の剥離装置 (伊藤悌四郎, 東北電機鉄工と共願)	二個のガイドレールを 適当の距離に平行に相對峙させ, それぞれのガイドレール面上に, 該面に並行して移動するローラー台を設け, ローラー台上には複数個のローラーを備え, かつ二つの該ガイドレールが相對峙する面に垂直かつ相對峙するローラーを互に面對称とならない位置でほぼ同期させて移動する機構およびローラー台がガイドレール面上を平行移動する機構を備えた電着金属の剥離装置。
7	806792 (51. 3. 8)	50-23872 (50. 8.11)	47-50761 (47. 5.24)	塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法 (丹 浩太郎, 酒井 昭一)	エチレン20~80重量%, 酢酸ビニル10~60重量% およびプロピオン酸ビニル10~60重量% を含む共重合体100重量部に対し塩化ビニル単量体を40~150重量部グラフト共重合させることを特徴とする塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法。
8	808066 (51. 3.15)	49-45076 (49.12. 2)	45-5566 (45. 1.21)	結晶性 α -オレフィン重合用三塩化チタニウム触媒成分の製造方法 (松岡 崇雄, 武藤 実, 水野 昭二)	四塩化チタニウムを三塩化アルミニウムの存在下にアルミニウム粉で還元し, 余剰の四塩化チタニウムを除去して得られる組成が近似的に $3\text{TiCl}_3 \cdot \text{AlCl}_3$ である三塩化チタニウムと塩化アルミニウムとの共晶体ないし結晶性化合物を粉碎した後, 1以上 760 mmHg 未満(絶対)の真空下で 70~220°C の温度で 0.1ないし20時間加熱処理することにより該三塩化チタニウム化合物中の TiCl_3 組成を 77.8~80.5重量% とすることを特徴とする結晶性 α -オレフィン重合用三塩化チタニウム触媒成分の製造方法。
9	811107 (51. 4.15)	50-24281 (50. 8.14)	48-45064 (48. 4.23)	α -オレフィンの二量化法 (井沢 正一, 山田 静夫, 井上 則男)	トリアルキルアルミニウムと三塩化ホウ素とニッケルキレート化合物の三成分触媒によるプロピレンの二量化法。
10	814468 (51. 5.14)	50-28927 (50. 9.19)	45-50745 (45. 6. 3)	1,1,1-トリクロロエタンの安定化方法 (大槻 進, 内田 侃一, 宮之原 勲)	1,1,1-トリクロロエタンに安定化補助剤として $(-\text{N}=\text{C}-\text{S}-)$, $(-\text{N}=\text{C}=\text{S})$, $(-\text{N}-\text{C}=\text{S})$, $(\text{N}=\text{C}-\text{S}-)$ の基を有する化合物を添加することからなる 1,1,1-トリクロロエタンの安定化方法。
	815449 (51. 5.24)	49-15357 (49. 4. 3)	44-85860 (44.10.27)	重合触媒成分の製造方法 (松岡 崇雄, 武藤 実)	1 四塩化チタニウムをアルミニウム粉で還元して得た近似的に $3\text{TiCl}_3 \cdot \text{AlCl}_3$ の組成を有する共晶体ないし結晶性化合物を脂肪族系-塩基性有機酸エステルと混合粉碎することを特徴とする炭素数3乃至6の結晶性 α -オレフィン重

No	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
11					<p>合体製造用触媒成分である三塩化チタニウム化合物の製造方法。</p> <p>2 四塩化チタニウムをアルミニウム粉で還元して得た近似的に $3\text{TiCl}_3 \cdot \text{AlCl}_3$ の組成を有する共晶でないし結晶性化合物を脂肪族系-塩基性有機酸エステルと混合粉碎し、然る後加熱して同時又は各別に上記脂肪族系-塩基性有機酸エステルを実質的に除去することを特徴とする炭素数3乃至6の結晶性 α-オレフィン重合体製造用触媒成分である三塩化チタニウム化合物の製造方法。</p> <p>3 四塩化チタニウムをアルミニウム粉で還元して得た近似的に $3\text{TiCl}_3 \cdot \text{AlCl}_3$ の組成を有する共晶でないし結晶性化合物を脂肪族系-塩基性有機酸エステルの少なくとも1種と100:0.03乃至100:10の重量比で混合粉碎し、その比表面積を $15 \text{ m}^2/\text{g}$ 以上とした後不活性ガス気流中で 80°C 乃至 200°C で0.2乃至20時間加熱し、同時又は各別に上記脂肪族系-塩基性有機酸エステルを除去することを特徴とする炭素数3乃至6の結晶性 α-オレフィン重合体製造用触媒成分である三塩化チタニウム化合物の製造方法。</p>
12	815473 (51. 5.24)	50-31576 (50.10.13)	45-104993 (45.11.28)	粘着剤組成物 (小坂勇次郎, 植村 勝, 藤木 時男, 佐古 秀典)	<p>酢酸ビニルを30重量%ないし70重量%を含みメルトインデックスが40ないし500のエチレン-酢酸ビニル共重合体30重量%ないし70重量%, 粘着付与剤としてロジン, ロジンの重合物あるいはロジンエステルの少なくとも1種と粘度低下および感圧性付与剤として, 常温で液状のキシレン-ホルムアルデヒド樹脂あるいは軟化点が 30°C 以下のクマロン-インデン樹脂またはその混合物を用いて粘着付与剤と粘度低下剤を両者合わせて70重量%から30重量%の混合物からなる常態で感圧接着性を有する粘着組成物。</p>
13	814466 (51. 5.14)	50-28447 (50. 9.16)	45-36091 (45. 4.28)	接着剤組成物用プレプレグ	<p>1 一般式</p>  <p>[ただし式中、R_1は</p>  <p>($X: -O-, -SO_2-, >C=O$),</p>

№	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
					<div style="text-align: center;">  <p>でR₂は</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(X: -O-, SO₂-, >C=O, >CH₂, -C(CH₃)₂-)</p> </div> <p>である。]で示される構造を有するポリアミドヒドロジド酸樹脂溶液をポリアミド樹脂繊維またはフィルムに含浸させ又は塗布してなる接着剤組成物用プレプレグ。</p> <p>2 一般式</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>[ただし式中、R₁は</p> <div style="text-align: center;">  <p>(X: -O-, SO₂-, >C=O),</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>でR₂は</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(X: -O-, SO₂-, >C=O, >CH₂, -C(CH₃)₂-)</p> </div> <p>である。]で示される構造を有するポリアミドヒドロジド酸樹脂溶液をポリアミド樹脂繊維又は、フィルムに含浸させ又は塗布し、得られた</p>

No	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
					生成物をポリアミドヒドロジド酸樹脂の化学組成を変化させない範囲の温度に加熱するか又は減圧乾燥して溶媒を除くことを特徴とする接着剤組成物用プレプレグの製造法。
14	817331 (51. 5.31)	50-35048 (50.11.13)	45-104916 (45.11.30)	2,3-ジクロロ-1,3-ブタジエンの安定化方法 (木佐木 尚, 続木 建治, 清水 貞美)	2,3-ジクロロ-1,3-ブタジエンを有する系の気相部分に一酸化窒素を含有する不活性ガスを存在せしめることを特徴とする2,3-ジクロロ-1,3-ブタンジエンの安定化方法。
15	818421 (51. 6. 9)	50-34524 (50.11.10)	45-22090 (45. 3.17)	1,1,1-トリクロルエタンの安定化方法 (大槻 進, 内田 侃一, 宮之原 勲)	1, 1, 1-トリクロルエタンに一般式 R_1COOR_2 (ただし, R_1 は炭素数1~4のアルキル基, R_2 は炭素数1~4のアルキル基, ビニル基またはアリール基である。)で表わされる低級脂肪酸エステル, ter-ブチルアルコール, ニトロメタンおよびメタクリル酸メチルを組合せて添加することからなる1,1,1-トリクロルエタンの安定化方法。
16	818917 (51. 6.30)	50-3343 (50. 2. 3)	41-71696 (41.11. 1)	樹脂溶液製造法 (足立 和生, 鈴木 孝, 大沼 宏)	懸濁又は乳化重合によって塩化ビニルと酢酸ビニルおよび又はプロピオン酸ビニルを共重合させ, 水を分離除去後, 水と共沸混合物をつくる溶剤を加えて加温し, 共重合体に附着残存する水分を溶剤との共沸混合物として一部の溶剤とともに蒸留除去し, 残部の溶剤を溶剤とする, 塩化ビニルと含量15~50重量%の酢酸ビニルおよび又はプロピオン酸ビニルとの重合度 300~500の共重合体溶液とすることを特徴とする樹脂溶液の製造法。
17	821639 (51. 7. 9)	49-15153 (49. 4.12)	44-44470 (44. 6. 6)	ビニル単量体の蒸留法 (大槻 進, 堀 恭一, 宮之原 勲)	ダウンカマーがなく, 周辺部の孔又はスリットを他の孔又はスリットよりも間隔を密にするか, あるいは径を大きくして下降液が塔壁全面を濡らし流下できるようにした多孔板を有する蒸留塔を用いて下降液が塔壁面を濡らして流下するようにして蒸留することを特徴とするビニル単量体の蒸留法。
18	824299 (51. 7.31)	49-17243 (49. 4.27)	48-52560 (48. 5.14)	トランス-2-ブテン-1, 4-ジフェーマイトの製造法 (木佐木 尚, 堤 幸弘, 竹重 浩佑, 真淵 俊介)	3・4-ジハロ-1-ブテンに銅, 鉄, 亜鉛, 及びそれらの化合物よりなるアリル転位を生ぜしめ得る異性化触媒のうち少なくとも一種の存在下にギ酸塩を反応せしめることを特徴とするトランス-2-ブテン-1・4-ジフェーマイトの製造法。
19	824972 (51. 8.16)	45-16340 (45. 6. 6)	40-64450 (40.10.22)	β -結晶相6・13-ジヒドロキナクリドンの製造法 (足立 和生, 川合 正久, 星川 正勝)	2・5-ジアニリノ-3・6-ジヒドロテレフタル酸ジエステルを N-メチルピロリドン存在下で加熱することを特徴とする β -結晶相6・13-ジヒドロキナクリドンの製造法。
20	824973 (51. 8.16)	49-33991 (49. 3.28)	47-75054 (47. 7.28)	ゴム状弾性体の製法 (宮川 俊男, 佐藤 明生, 後守 誠一, 山下 晋三)	1-クロロブタジエンとブタジエンの単量体混合比(重量)を3~20:97~80の範囲で共重合させることを特徴とするゴム状弾性体の製法。
21	824974 (51. 8.16)	49-130988 (49.12.16)	48-44207 (48. 4.20)	クロロプレンまたはこれと他の共役ジエンと	(A)有機アルミニウム化合物, (B)水および(C)含ハロゲン化合物の存在下, かつ紫外線または白色

№	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要旨
				の混合体と α , β -不飽和カルボン酸エステルとの共重合体の製法	光の照射下において、クロロプレンまたはこれと他の共役ジエンとの混合体と α , β -不飽和カルボン酸エステルとを共重合させることを特徴とするゴム状弾性体の製法。
22	827637 (51. 8.31)	51-1474 (51. 1.17)	47-95525 (47. 9.22)	クロロプレンと α , β -不飽和カルボン酸エステルとの共重合体の製法	有機アルミニウム化合物および水の存在下、紫外線または白色光の照射下において、クロロプレンと少なくとも一種の α - β -不飽和カルボン酸エステルとを共重合させることを特徴とするゴム状弾性体の製法。
23	829031 (51. 9.14)	51-6027 (51. 2.24)	47-75053 (47. 7.28)	懸濁液の処理方法	ニッケル製錬鉍滓を粉砕し鉍酸で処理反応させて得られる生成物を凝固剤として単独に使用するか或いは、カチオン性の水溶性有機高分子量重合体を凝集助剤として併用することを特徴とする懸濁液の処理方法。
24	829826 (51. 9.22)	48-16486 (48. 5.22)	42-52595 (42. 8.16)	オキソ塩素化法における二塩化エタンの回収方法	酸素源として空気を用いるエチレンのオキソ塩素化法において、生成ガスを冷却して大部分の二塩化エタンを取得したのち、不活性ガスに伴われる二塩化エタンを回収するに当り沸点範囲が 135—190°C の間にあるアルキルベンゼンの 1 種又は 2 種以上の混合物に吸収させ、この吸収液を蒸留することにより二塩化エタンを分離することを特徴とする二塩化エタンの回収方法。
25	833610 (51.10.30)	50-39611 (50.12.18)	44-30006 (44. 4.19)	自溶性合金を溶射する方法およびその装置	1 原料給粉筒に収容した自溶性合金を原料給粉筒から、一定速度で水平に回転している回転円盤の外周に設けた円輪形溝に供給し、その円輪形溝中の自溶性合金面を仕切り板で平滑にし、これを円輪形溝面に対して相対的に定位置に設けたスクレパーによって溢出させ、その自溶性合金をアセチレンガスと酸素との混合ガスのジェット気流に混じ、得られる混合ガスを燃焼させて生ずる火焰を被溶射体に吹きつけることを特徴とする自溶性合金を溶射する方法。 2 切欠き部を有する自溶性合金の給粉筒の下部に、一部分がその給粉筒下部面外に露出して回転する回転円盤を設け、その回転円盤の外周に円輪形溝を設け、かつ前記給粉筒の切欠き部の側壁に前記円輪形溝に供給した自溶性合金面を平滑にする仕切り板を設け、さらにこの給粉筒の切欠き部に仕切り板に続いて前記円輪形溝内を上下し得るスクレパーを設けた定量自動自溶性合金給粉機と、この給粉機から自溶性合金を溶射機に供給する供給管と溶射機とからなる自溶性合金溶射装置。
26	833637 (51.10.30)	49-42611 (49.11.15)	45-120887 (45.12.29)	乾電池の製造法	γ 二酸化マンガンを β 二酸化マンガンを 10~40重量%共存させた二酸化マンガンを減極物質とすることを特徴とする二酸化マンガ乾電池の製造法。
27	836942 (51.11.30)	51-11082 (51. 4. 8)	45-21115 (45. 3.12)	メソ体テトラクロロブタンの製造法	メソ-1,2,3,4-テトラクロロブタンを製造するにあたり、トランス-1,4-ジクロロ-2-ブテンを原料とし、反応温度 50~90°C で塩素と直接反

No.	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	発明の名称	要 旨
	堤 幸弘)				応せしめることを特徴とするメソ-1,2,3,4-テ トラクロロプタンの製造法。

<実用新案> 4件

No.	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	考案の名称	要 旨
1	1116877 (51. 2.13)	50-22894 (50. 7.10)	44-94040 (44.10. 1)	緩衝材 (石田正明, 藤井秀雄)	柔軟な合成樹脂のフィルム又はシートを材料として作製した袋において、この袋はその一部に設けられた開口部を残して全周縁が閉じられており袋の内部には上記開口部から別に軟質フィルム製の筒状体が扁平に押圧された状態で挿入されており、上記筒状体の一端部は、その外周縁において上記袋の開口部の内周縁に接着されて袋の口を形成し、筒状体の他端部は袋の内部において開口しており、上記筒状体の軸方向の長さは筒状体の折り径よりも長くされており、また、上記筒状体は扁平に押圧されたときの両側縁が、上記袋を構成する壁のいずれか一方の側の内面に扁平状態として接着され、かようにして構成された口を有し、上記口から流体を圧入したのちは、そのまま放置するのみで流体が排出されることのないようにしたことを特徴とする緩衝材。
2	1124175 (51. 4. 7)	50-20971 (50. 6.25)	43-69186 (43. 8.12)	合成樹脂製袋 (石田正明, 藤井秀雄)	柔軟な合成樹脂のフィルム又はシートを材料として作成した袋において、この袋はその一部に設けられた開口部を残して全周縁が閉じられており上記開口部には柔軟な合成樹脂チューブが扁平に折り畳まれて挿入され、折り畳まれたチューブでは、重なり合う部分が少なくとも一端において不揃いとなって長片と短片とを形成しており、チューブを袋へ挿入するに際しては、長片と短片とが存在する側を袋の内部に位置させ、袋の開口部に沿って開口部内壁面とチューブの外壁面とを接着して開口を形成し、袋内では長片が長片の存在する側の袋の内壁面から離れており、かつ短片の存在する側の袋の内壁面に短片を挟んで接着されており、その接着部分は長片の両側縁上にあつて、少なくとも短片よりも突出している長片上にあることを特徴とする、合成樹脂製袋。
3	1129260 (51. 5.26)	50-33401 (50. 9.29)	45-70171 (45. 7.14)	自動包装装置の袋の検出装置 (山本昭三, 藤井直明, 保田七郎)	少なくとも1組の腕又はその同効物の組合せにより、袋を掴んで移動、固定等の動作をするチャック装置において、一方の腕の表面が凸円弧形状のゴムからなる掴み部分にスイッチのロッドを出入自在に取付けると共に、他方の腕の表面が凸円弧形状のゴムからなる掴み部分に該スイッチのロッドが入り得るポケットないし穴を設け、上記ロッドはスイッチの接点バネに接合して外側に押出される押圧力を受け、該ロッドが上記接点バネの弾力及びそれに抗する力によ

№	登録番号 (登録月日)	公告番号 (公告月日)	出願番号 (出願月日)	考案の名称	要 旨
					て出入する動作でスイッチの接点を開閉させ、両腕間の袋の有無又は変化を電気信号として取出す構造を有することを特徴とする自動包装装置の袋の検出装置。
4	1139451 (51. 8.24)	50-43346 (50.12.11)	46-116178 (46.12.11)	炎しん部用しん	炎色剤および多孔性物質からなる錠剤を繊維でくるんだランプの炎しん部用しん。